

# 弘前市長「いきいき健診」視察

## 取り組み「日本けん引」

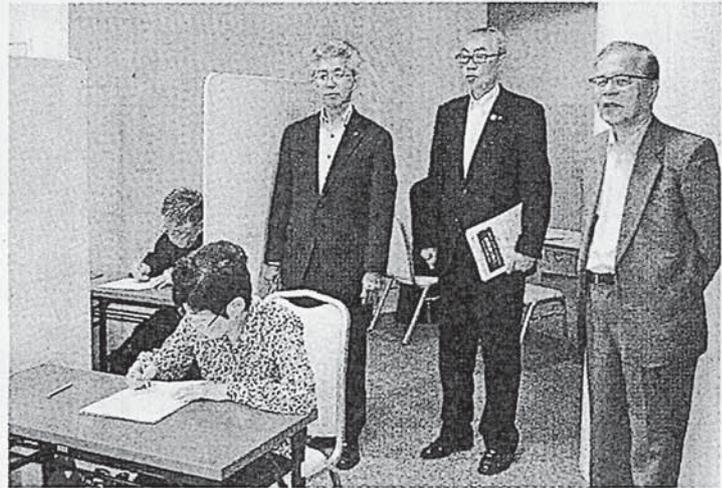
### 健康づくり効果に期待

弘前市の櫻田宏市長は13日、弘前大学と同じ市が健康寿命延伸に向けて取り組んでいる、65〜80歳の市民2400人を対象に健康状態を10年間追跡調査する「いきいき健診」の実施状況を視察した。

「いきいき健診」は2016年度からの10年間、全国8大学が全弘前市を対象に、認知症の危険因子や予防方法を探るために行う大規模調査の一つ。弘前市での健診は約2400人を対象に隔年で実施。今年度は16年度に調査した1200人が対象で9日〜15日の間に行っている。

会場の岩木文化センターあそびるでは、弘前市副市長（右から2人目）

社会医学講座の中路重之特任教授が健診の概要を説明。櫻田市長と鎌田雅人副市長が、認知機能を判断する想起想起テストなどが行われる健診会場を視察し、中路特任教授（右）から説明を受ける櫻田市長（右から3人目）、鎌田副市長（右から2人目）



テストや嗅覚検査、立位衰えを診るロコモディチ上がりなど運動器の「フシンドローム検査」

メタボリックシンドロームについて調べる血圧、血液検査などについて説明を受けながら会場内を回った。

櫻田市長は「日本をけん引する健康づくりの取り組みだ。岩木健康プロジェクトといきいき健診の両方がこれからの健康づくりに生かされ、また弘大を

中心に企業、地域の人の取り組みが地域の力になっている」と効果に期待を寄せた。

（成田真由美）